

【普通作物】の【高温】対策について

<9月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【普通期水稻】（出穂期～成熟期）

（１）予想される被害状況

- ① 高温により白未熟粒が発生し品質が低下する。
- ② 病害虫の多発により収量・品質が低下する。

（２）事前対策

- ① 白未熟粒を抑制するため、基本的な水管理を徹底する

（ア）穂ばらみ期から出穂開花期

湛水状態とする。蒸散量が多い時期であり、吸水量が不足すると穎花の発育や受精に影響を受ける。

ただし、出穂前の湛水状態で水温が高くなると、根が傷み登熟に悪影響を及ぼす恐れがあるので、水を入れ替えるなどして水温上昇を防止する。

（イ）登熟期

飽水管理や間断かん水で根の健全化を図る。なお、間断かん水時は、落水時も水分不足にならないように土壌が十分湿っている状態を維持する。

用水の水温が低く、十分な用水が利用できる場合、夜間通水やかけ流しが有効である。

（ウ）ほ場・用水

畦畔からの漏水がないか確認する。

地域全体で節水に心がける。

用水が不足する地域では、地域ぐるみで計画配水に努める。

- ② 病害虫発生について、カメムシ類、ウンカ類、紋枯病、いもち病の発生に注意し、防除が遅れないように心がける。

（３）事後対策

- ① 飽水管理や間断かん水を継続する。

早期落水は、白未熟粒の発生助長や胴割米・不完全米・屑米の増加につながるため、収穫５日前までは田面の湿潤状態を保つ。

- ② 病害虫の発生状況を確認し、必要に応じて追加防除を行う。